

厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）
分担研究報告書

日本の輸血医療における指針・ガイドラインの遵守状況の検証に関する研究

研究分担者 岡崎 仁 東京大学医学部附属病院輸血部長

研究要旨

オンライン上の公開資料をもとに、欧米の主要国の輸血実施可能施設数を調査した日本の輸血実施可能施設数よりも少なかった。

A. 研究の目的

海外の輸血ガイドラインの策定状況とその遵守に関する文献調査を行い、また、海外の輸血事情の調査を行う。

B. 研究方法

R2 年度に引き続き「ガイドライン遵守」「輸血」に関する海外の文献（英語）を PubMed や Google Scholar から抽出し調査する。また、制限輸血のインセンティブが各国で異なることが予測されることから、海外の輸血事情（輸血実施可能施設数、血液製剤の価格、保険の償還状況など）について調査する。

（倫理面への配慮）

文献調査につき倫理審査は非該当。

C. 研究結果

オンライン上の公開資料をもとに、欧米の主要国の輸血実施可能施設数を調査した。2018 年現在、米 6,210 施設、加 1,200 施設、英 1,910 施設、仏 3,042 施設、西 782 施設、独 1,925 施設、伊 1,048 施設であり、いずれも日本の輸血実施可能施設数（9,526 施設：2019 年度調べ）よりも少なかった。海外の輸血事情に関するその他の情報（血液製剤の価格や保険の償還状況など）については調査を継続している。

D&E. 考察と結論

欧米の主要国の輸血実施可能施設数の調査結果から、日本での輸血医療へのアクセスのよさが示唆された。日本では、保険制度や輸血管理料取得が制限輸血のインセンティブとなっている可能性が高い一方で、各国ではそのインセンティブが異なることを考えると、「輸血量の減少」

を適正輸血や輸血ガイドライン遵守の指標にして単純に国別比較をすることは困難だと判断された。R2 年度の文献調査結果、今回の調査結果、そして調査対象国のその他の輸血事情（R4 年度調査予定）を合わせて検討していくことが重要であると考えられた。そこで、関連文献調査については、Overtransfusion（TACO などの副作用も含め）、Undertransfusion などのキーワードをもとに継続していく予定とする。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし